

日時：令和元年11月14日

開会 午後1時00分

○大阪市経済戦略局（松本課長） それでは、定刻になりましたので、令和元年度第1回大阪市イノベーション促進評議会を開催いたします。

本日の評議会はY o u T u b eにより同時配信しております。

本評議会は、大阪市の執行機関の附属機関に関する条例に基づき、平成25年の大阪イノベーションハブの開設に合わせて設置しており、グローバルイノベーションの創出の支援に関する事項の調査審議及び市長に対する意見の具申をお願いするものでございます。どうぞよろしくお願いいたします。

初めに、開会に当たり大阪市経済戦略局イノベーション担当部長の馬越から御挨拶申し上げます。

○大阪市経済戦略局（馬越部長） 経済戦略局の馬越でございます。皆様、本日はお忙しい中、御出席いただきまして、誠にありがとうございます。

また、昨年度は基本方針の改定に当たり、貴重な御意見を賜りましたことを重ねて御礼申し上げます。おかげさまで、大阪イノベーションハブで実施しております各事業、順調に進んでおります。本日は、本年度事業の進捗状況を説明いたしますとともに、下期の方向性につきまして御意見を賜りたいと考えております。

御存知のとおり、大阪では内閣府の「スタートアップ・エコシステム拠点都市」の取り組みを進めるために、去る10月31日に産官学が連携して、コンソーシアムを立ち上げ、一層のスタートアップ支援、イノベーション創出の取り組みを進めることにしております。委員の皆様には引き続きの御支援、御協力をお願いいたしまして、挨拶とさせていただきます。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

○大阪市経済戦略局（松本課長） それでは、ここからは正城委員長に議事進行をお願いいたします。

○正城委員長 はい。よろしくお願いいたします。大阪大学の正城です。この評議会の委員長を仰せつかっております。東委員、竹村委員、田中委員、本日はよろしくお願いいたします。

それでは議事を進めていきたいと思っております。次第をご覧ください。本日の議題は、令和元年度の大阪イノベーションハブの活動状況ということで、上期の活動を中心に御説明いただいて、そのほか、ディスカッション等が必要なことがあれば進めていきたいと思っております。

前回は、昨年度末あと少しというところで下期、暫定の評価案を出させていただいて、また、後ほど御説明があると思いますけれども、今年度から新たに始まった期間の基本方針に意見をさせていただいたということで、評議会は終わっておりますが、その後、大阪市がその基本方針を固められたということと、既に上期が終わっておりますので、その活動を御報告させていただいて、その点について皆さんと意見交換あるいは御質問、こういうふうにすればいいんじゃないかというような御意見をいただきたいと思っています。

では、早速ですが議題について事務局から説明していただきますので、まず、資料1～3まで、大阪市の事業体系と基本方針、議題について、それぞれ御説明をお願いいたします。
○大阪市経済戦略局（田原課長代理）　イノベーション担当課長代理の田原と申します。
ただいま委員長からございましたとおり、私から3点御説明いたします。

まずは、本市のグローバルイノベーション創出支援事業の体系、こちらは資料1ですね。

次に、このたび策定いたしました基本方針、資料2。そのあと、OIHでの主な取り組み、これは上半期の分ですね。こちらが資料3～4にかけてなんですけども、順にまいります。

本日、説明内容も資料も大変多いので、まずは概要、ポイントをお伝えして、そのあと、御意見、御質問をいただく際に、そのお答えの中で詳細は適宜補足させていただくということをお願いいたします。

まず、一つ目の資料1をご覧ください。こちら本市のイノベーション施策の全体像になります。目的は大阪・関西にイノベーション・エコシステムを構築することと、行政としてその環境整備をすることを目標に掲げております。そのために、委託事業や当実行委員会形式などの手法で各事業を行っております。事業①、②、③と、イノベーション創出支援の補助金、こちらを実施しております。

資料1について順に補足させていただきますと、事業①ですね。これはまさにこのOIHで主催共催するイベントが中心となっており、利用者の属性やニーズに応じて様々なプログラムを提供しております。人材集積、育成、結合、プロジェクト創出、さらなる出会い、これは開設当初から6年半かけて実施してきたものでございます。

それから、事業②のOIHシードアクセラレーションプログラム、こちらは創業前後から創業後5年ぐらいまでの事業者の事業成長を加速していくもので、1回当たり10社に対して4カ月のプログラム、それを年2回実施します。これまで7期で70社をサポートしてまいりました。こちらは後ほど詳細を御説明いたします。

それから、事業③プロジェクトのショーケースをタイトルにしておりますが、こちらは国

際イノベーション会議「Hack Osaka」で、これまで7回実施してまいりました。ショーケースの名前のとおり、大阪の成果、ポテンシャルの発信、それに加えて世界のトレンド、潮流、こういったものも紹介する全編英語の国際会議です。1日限りのイベントですが、ピッチコンテストの他にショーケース、ミーティング、商談会のように、できるだけ来場者、登壇者、スピーカーが出会い、そこでビジネスの創出のきっかけとなるような、ヒントを掴んでいただくような、そういう仕掛けを幾つも用意したものになっております。

それから、イノベーション創出支援補助金、こちらは大学と企業の連携による研究開発に対する補助金になっております。

以上が主な事業です。大阪・関西の人材、ベンチャー、大学、大企業、VC等と、大阪のみならず「オール関西」で連携してプロモーションも行い、相乗効果を生み出していこうという機運が高まっております。

資料1に関しては以上です。これは事業として独立した形になってはいますが、全て繋がって互いにシナジーを出しており、それが大阪・関西のエコシステムの評価に繋がるように取り組んでおります。

続きまして、資料2が基本方針で、平成25年度に本事業を開始したと同時に策定したもので、3年ごとに見直しをかけております。前回の3月に実施した評議会で皆様方からいただいた御意見も踏まえまして、この4月に改訂したものでございます。構成としては、背景、直近3年間の目標とその達成の状況、それから、現在の課題、そして今後の方向性と次の3年間の目標、そういった構成になっております。こちらポイントをお伝えしてまいります。

背景としては、ここに書いてあるとおりで、この6年間でプロジェクト創出推進支援をしまして、資金調達の成果もあります。一方で産業構造が変化し、様々な分野で生産性向上や人材力の強化が求められています。また、大阪では大きなプロジェクト、うめきた2期の開発と2025年の万博を控えております。この3年間の基本方針の達成状況ですが、理念を一言でいえば、つなぐ機能です。これを創って強化していこうという取り組みになっておりました。うめきたエリアを中心に大阪・関西のリソースを集めて繋げて、そして反応させる取り組み、それをOIHでのイベントや各種サポートを通じてやってきたとそういう3年間になっておりました。

それから、目標とその達成状況ですが、まず認知度の向上など、とにかくこういう取り組みをわかってもらおうというのもありまして、つながる人数、それからピッチイベント開催回数、そしてプロジェクトの創出、推進支援と投資額ですね。これらの数値を掲げ、全て達

成ができているという状況でございます。

続きまして、3番の現在の課題ですが、まずはイノベーション創出やエコシステムの認識、これはOIHの認知度と共に大分認識も高まりましたし、参画も増えてきたところですが、まだ限られた層に留まっているので、今後は一層の拡充を図っていきたい。特に大阪の大企業、中堅中小企業、学生を含む若手、こういった方々の参画を促していきたいと思います。

それから、ダイバーシティーとクリエイティビティを高める取組みも、この上半期にOIHでの各種プログラムを通じてこうしたことを意識した取組みが進んでおりますが、引き続き挑戦していきたいと考えております。

それから、これはOIHとしての課題ですが、あとは我が国や大阪全体ですね。以下(2)に書いている課題がございます。生産性向上、人材力の強化、様々なステークホルダーを巻き込んだオープンイノベーションの推進といったものがございます。

4番に移りまして、今後の方向性ですけれども、これまで以上に幅広い関係者がOIHの取組みへの参画、イノベーション担当部署だけに留まらず大阪市内の関係部署や、当然、社会課題、行政課題の解決も視野に入れ、あとは産学官の各団体との連携、こういったことをしていきたいと思います。もちろん2025年の万博の機会も最大限に活用していきたいと思います。

最後のページに次の3年間、今年度からの目標を掲げております。エコシステムの担い手の多くが一堂に会するピッチイベントの継続的、安定的な開催に向けて拘っていききたいので、このように掲げております。

それから、プロジェクトの創出支援件数とOIHでサポートしたベンチャー企業等の資金調達額も掲げております。

それから、パートナー会員が③番がございます。大阪、関西というのはここが非常に重要な存在になってきますので、こちらの増加を意識して取り組みたいと思います。

それから④について、グローバル展開は当初から意識してきましたが、より具体的な成果目標、海外事務所の開設や海外企業との提携、こういったことを掲げております。

以上が、基本方針として策定されたもので、今年度含めて3年間この方針をもとに活動してまいりたいと考えております。

続きまして、今年度の「上半期の活動について」でございます。

まず、資料3で特徴的な取組みやイベントプログラムを御説明させていただき、その後、A3判の資料4-1で目標の達成状況、資料4-2で振り返りと下半期に向けての考えを説

明させていただきます。

まず資料3ですが、これはイベントやプログラムで特に注力してきたのが、グローバル展開、コミュニティ強化（特に学生や若者の巻き込みと人材育成）、大学の技術シーズ発の新事業創出、の三つでございます。

まず、グローバルについて、大阪にいながら出来た繋がりや、海外からのお客様の受入の機会を活用して、現地機関との提携、現地の大規模イベントにおける出展サポート、ピッチ登壇のサポート、そういった人材やイベントの大阪誘致、こういったことに繋げております。事例として、ヨーロッパとアジアについて記載しております。また、資料4で御説明いたします。

続きまして、二つ目はコミュニティ形成と人材育成です。今年度の特徴は連続講座です。単なる情報提供セミナーではなく、ワークショップ形式の連続講座、半分アクセラレーションの要素も入っていると思うのですが、こういったことを増やしております。若手起業家を対象にしたものや、大企業向けのオープンイノベーションの取り組みを強化しております。

それからピッチ。モーニングミートアップは本当にOIHの看板イベントになっております。先週の金曜日の開催分で127回になります。それから学生向けのハッカソン、製品開発系のイベント、こういったことも実施しております。

続きまして、シードアクセラレーションプログラムでは、これまでの3年半で7期70社分サポートしまして、来週から8期目が始まるところです。KPIについては資金調達55億円超、大企業等との事業提携66件、メディア露出293件と目標を達成しました。第7期、この半年に限ると、資金調達は2,000万円、これが今後これからどんどん増えていくというふうに考えております。

続きまして、大学に関して、まずOIHでは「テックミーティング」と呼ばれる大学名を冠したイベントに注力しております。これまで開催してきた4件の実例を挙げておりますが、お客様はテック系のスタートアップ、中小企業、大企業の新規事業担当者、技術系の商社もいらっしゃいます。今年度中に最低あと2回は実施していきたいと考えております。

続きまして、補助金です。大学の研究技術シーズと企業とのコラボレーションに対する補助金で、昨年度までに71件補助し、うち10件が実用化されております。かなりの実用化の割合になっているのではないかと思います。

ここまでが上半期の取組みで、下半期も様々なイベントプログラムを予定しております。2月に比較的大きなグローバルイベントを三つ集中的に開催いたします。一つは国際イノベ

ーション会議「Hack Osaka」です。第8回は「オープンイノベーションの成功の秘訣」をテーマに掲げ、パネルディスカッションでも各国の成功事例と失敗事例の両方を紹介します。大企業の皆様やオープンイノベーションの「担い手」もたくさん参加されます。「大阪のオープンイノベーションとは何か」を考えるイベントになっております。

他にもあと二つ、グローバルピッチイベントを開催いたします。アメリカから誘致した「スタートアップワールドカップ」は初開催になります。あとはオランダ発祥のボクシングリングスタイルで行うエンターテインメント性の高いイベントですが、こちらも大阪での開催は次で4回目を迎えます。

最後に、部長の馬越から冒頭で少し紹介がありましたが、「スタートアップ・エコシステム支援拠点都市」について、これは国が全国で二、三カ所、世界で活躍できるスタートアップの成長や、エリアのエコシステム強化のために「グローバル拠点都市」を選定いたします。これは来年の1月に公募されるものですが、大阪もそれに名乗りを上げるということを表示しております、これまで地域の産学官でやってきた連携の枠組みを更に拡充しまして、「大阪スタートアップ・エコシステムコンソーシアム」を先月末に設置いたしました。オール大阪で世界に冠たるスタートアップ都市、大阪を目指す体制を整えましたので、これで一丸となってやっていきたいと。それを今回御紹介させていただいております。コンソーシアムにつきましては、お手元の資料の束の最後に参考資料として付けております。

上半期の主な取り組みは以上となります。

続きまして、A3の資料4-1と資料4-2をご覧ください。一番上にある四つのテーマそれぞれにアウトプット事業量とアウトカムの成果、さらにそれぞれについて目標と実績と縦に記載していくというスタイルになります。これまでこういう形で資料を作成していましたが、少し数字も多くて複雑でしたので、今回、重要なところを残して整理し、見やすくさせていただきました。

まずは黄色のマーカー部分ですが、こちらは目標に対してその実績がわかる数値です。中でも色つきの枠、これは先ほど御説明いたしました基本方針に記載してあるKPIになります。赤枠が目標、青枠がそれに対する実績、こちらは4月から9月の上半期分になります。まず左端の「情報発信」は英語での発信を増やしまして、数値としては極めて順調に進んでおります。OIHの取り組みとOSAPですね。シードアクセラレーションプログラム、こちらの連携も効果的に行い、一体として発信できていると考えております。

それから「コミュニティ形成・連結」ですが、こちらもイベント数、パートナーの登録の

数も順調に進んでおります。あとは海外ネットワークが、本当に色々なところと繋がるだけでなく、そこと連携したイベント実施や人材を送り出すなど、具体的な連携も増えております。

それから「プロジェクト創出」、こちらは人材育成とピッチイベント、これが想定を大きく上回るペースで実施できております。プロジェクトの創出推進支援件数と資金調達につきましては、年度末にまとめて集計させていただきます。イベントの数などに比べて少し取り組みの Spann が長くなっておりますので、こちらも年度末にまた御報告いたします。

最後に一番右の「ショーケース、国際会議」ですが、こちらは2月27日開催に向けて準備をしております。1日限りのイベントですが、準備の過程で様々なところと国内外のキープレイヤーと交流します。あとは終わってからのフォローアップも非常に需要だと考えておりますので、このイベントに関してその前後を重視しております。

次、資料4-2ですが、数値目標のあるものは、これは年度末の集計を除いて全て順調で大きく上回るペースで進んでおります。

下半期に向けて、まず「情報発信」に関しては、エコシステムのコンソーシアムの設立もあり、大阪市とOIHの施設としての取組みだけでなく、スタートアップ拠点都市にふさわしいプロモーションになるような活動をしていきたいと思っております。

それから「コミュニティ形成の連結」ですが、これは大阪市の他の部署、例えば実証実験や人材の流動化に関わる場所との連携や、地域の大企業、大学とコラボレーションした取組み、こういったことを充実させていきたいと思っております。

それからシードアクセラレーションプログラム（OSAP）、これは1期から7期までの70社で同窓会、アラムナイのコミュニティを創りました。ここから新たな出会いやプロジェクトが生まれる仕掛けづくりに今年度から取り組んでおります。全国的にもアクセラレーションプログラムが増えてきておりますが、かなり珍しい取組みであると考えております。

それから、プロジェクト創出に関しては、人材育成に注力しており、各種プログラムで生まれたチームへのフォローアップが極めて重要になります。イベントが「終わり」ではなく、イベントが「始まり」という認識で行う必要があると思っておりますので、そういったチーム・個人に対してピッチ登壇や資金調達、プロジェクト創出に繋がるようなサポートをしていきたいと考えております。OSAPのアラムナイも海外展開プログラム実施を予定しております。

最後にショーケース、「Hack Osaka」ですが、今回は大学や学生が参画しやすい仕掛け、

関西の既存企業が関わる場面を増やしていきたいと思っております。ブース出展、スピーカーと登壇者との交流、商談会の参加等を通じて、できるだけ「自分事として」こういう場を活用してもらって、次の取り組みに繋げていく場にしたいと考えております。

私からの説明は以上になります。よろしくお願いいたします。

○正城委員長 ありがとうございます。

今、資料2と3、それから4-1と2を御説明いただきまして、上期の活動を中心に御意見、御質問等を受け付けたいと思います。

まず、その前に最初に御説明いただいた基本方針ですね。前回の協議会で確定してなかったところも御意見反映して作成いただきましたが、何か今の御説明で基本方針の分で御質問があれば、そこから受けたいと思います。いかがでしょうか。

宜しいでしょうかね。先ほどの御説明で。前回までの基本方針はKPI的な数字が多く、あるいは反省の部分が多過ぎて、6年間行った上での「強み」がもう少しアピールされては…ということがあったと思うのですが、それは少し反映していただいて、数値目標的なところはキーとなるところに絞っていただいたものと思います。特によろしいですか。御理解いただいたということで。はい、じゃ、もしあれば後でさせていただきたいと思います。

では、本題の上期の活動状況を踏まえて、パワーポイントの資料3とそれから整理いただいた資料の4-1、4-2について、御質問でも確認でも御意見でもあれば何でもスタートさせていただきたいと思いますが、いかがでしょう。

ちょっと、私から、最初の「グローバル展開に向けた取組み」という資料3の2ページと、下期になりますが、8ページの「Hack Osaka」、「Get In The Ring」、「Startup World Cup」の二つの間で何かこう有機的な連携や、何か案件がこう繋がっていく可能性があるなど、何かそういうプログラム間の連携みたいなものはあるのでしょうか。あるいは逆かもしれませんけれども、過年度にこういったイベントからネットワーク構築に加わっていったプロジェクトあるいは企業があるということかもしれません。

○大阪市経済戦略局（田原課長代理） そうですね。まあまあ繋がっているかなと思います。「Get In The Ring」2019は今年の2月に大阪で実施した時の優勝者二人と、この2019のベルリン大会に行きました。そこでは決勝で負けてしまいましたが、やっぱり世界中から集まってくるので、そこで当初想定しなかった投資家と出会ったりとか、ちょっとそれが良いお話に繋がっていったりとか、我々としてもその場で「Hack Osaka 2020」に登壇してくれる候補者ですとか、あとはピッチコンテストに出してくれる方と繋がるなど、色々な機会

を最大限に活用できているのかなと思います。

あと、アジア方面も本当におかげさまで昨年度でもO I Hに国内外から視察や、意見交換に来たいという声をいただいて、その出会いをきっかけに次から呼んでもらったりとか、あとは出張中に訪れたシンガポール国立大学が主催しているイベントに大阪、O I Hの出展枠をいただいたりと、そういう形で繋がっています。そこにO I Hでサポートしているプレーヤーの皆様を連れて行って、更に次のステップに進んでいただくと、そういった繋がりがございます。

○正城委員長 ありがとうございます。ちょっとそれに関連して、今回、今年から始まった基本方針で非常に大きな目標として、そのO I Hが支援するベンチャー企業等が海外に進出する、あるいは海外と連携するという事は3年間で3件と掲げられていて、資料4-2の下期のところ、正にその海外展開を支援するプログラムを11月に実施と書かれてありますが、もう少し具体的に教えていただけないでしょうか。その内容に応じて各委員の方から、さらにアドバイスをいただけるかもしれませんので。

○大阪市経済戦略局（大山係長） そちらは、私が今月の最終週にシンガポールを訪問させていただく予定になっております。過去の60社の中から選抜したテック系企業5社と共に、今まで出てきたようなネットワークができたところ、シンガポール国立大学、テマセク、あとはデロイトの設えで現地でのピッチイベントなどにも出演をさせていただいて現地のV C、政府機関等々と繋がりをつくって投資や海外企業との連携に繋がる、また支援拠点構築支援を行うといった内容を予定しております。また、J R東日本さんの現地拠点を活用させていただいて、連携を図ってまいりたいとそうように考えております。

○正城委員長 ありがとうございます。

今の支援プログラムに限らず、海外関係について各委員、何か御意見ありますか。

○東委員 海外で色々イベントを行う点について、「現地ではどうなのか」が実際評価されておらず、G 2 0の時も、日本でニュースになっても本当に言って欲しいことが海外に伝わっていないようなケースがあった。日本だけで盛り上がりつつも仕方ないので、例えばシンガポールで大阪の話が結構出てくる、「現地政府と大阪でやっています」という、よく経産省がやっているパターン、国同士の上位で手を結んで、お互い連携するという、そこまでの仕組みになっているかは相手方の反応もモニターしておきたいなと思います。ここで、やっぱり定量、日本側の「国際イベントを呼びました」、「誘致できました」となるので、「One Of Them の大阪の優先順位ってどのレベル？」といった点を見ておく必要があるかな

と最近思いますね。

○大阪市経済戦略局（大山係長） ありがとうございます。拠点のこともございますので、現地で大阪の評価等も今回聞いて参りたいと思います。

○正城委員長 お待たせしました。竹村委員、何かありますか。

○竹村委員 海外展開にかかる質問とコメントです。質問は、過去の60社の中からテック系の会社がシンガポールでデロイトさんのサポートがあって行かれるということですが、大阪もこれから伸ばしていくヘルスケアなど何か産業の計画があったと思うので、そういったところと今回派遣されている会社との関係性や、来年度のグローバル展開をどういうふう考えていらっしゃるって、今回のシンガポールに繋がっているのかなと思います。

○正城委員長 少し聞き取りにくいところがあったので、復唱すると、実際に海外進出を支援するテックベンチャーと、大阪市として元々、伸ばしていきかけたこと、例えばヘルスケア分野のベンチャーがきちんと海外進出にいつているのかというのが最初の質問でいいですか。

○竹村委員 そうですね。「支援プログラムと育てていきたい産業との関連性というのはどういう整合が取れていますか？」ということです。

○正城委員長 じゃ、それをまずお願いします。

○大阪市経済戦略局（大山係長） 今回、5社選抜するに当たり、最初からテック系でいこうと決めていたわけではありません。応募があった中で最終的に評価の高かったものがテック系になりました。「ノーブナイン」という会社など、ライフサイエンスに関係するところも当然入っております。ライフサイエンスに絞ってやっていたわけではないので、全部が全部そういうわけではないですけれども。

○大阪市経済戦略局（馬越部長） 確かに、支援プログラムと大阪が育てたい産業が一致するのが理想ですが、やっぱり海外に行って成功する、注目されるには、ある程度の実力と、また言葉の問題もありますし、我々のプログラムである程度育て、成長が見込める、優秀なところということで5社選抜しました。OIHからグローバルにどんどん出ていくというスタートアップをつくりたい、というのが今回のプログラムの目的でもありまして、そういう点ではトライアル的なところもあります。OSAPやOIHで育ったところが海外に出ていく、それが第一ということでやっておりますので、御理解いただきたいと思います。

○正城委員長 ありがとうございます。今ので、御質問のところはよろしいですか。

○竹村委員 はい。わかりました。

○正城委員長　　あと、コメントについてはどうですか。

○竹村委員　　コメントとしては、海外に進出していくのは素晴らしいことですが、シンガポールはハブ機能でメインではないので、シンガポールの先に何を指したいのかというビジョンですね。東南アジアでもどこのマーケットを狙うのか、もう少しはっきりされた形で訪問をされた方がより次のステップに繋がるかと思えます。シンガポールに行くということは東南アジアに進出したい、ということだと思うので、余りにもニーズが多様でコーディネートし切れないところが出るかなと思ひ、今回の学びをうまく次回に活かしていただいて、実際に何かこう、どこかに狙いを定めて、人を採用する、拠点をつくっていくというところに訪問が繋げられるのかなというところで、ちょっと。

○正城委員長　　はい、ありがとうございます。

○大阪市経済戦略局（馬越部長）　　その点に関しましても、今回このプログラムはシンガポールになりましたが、別途O I Hではタイの「N I A」という国のイノベーション庁とも深く関係がありまして、そちらからも日本で、タイと親和性のあるスタートアップはどんどん紹介してくれという話もあります。リクエストに応じてスタートアップが派遣できるようになればいいな、といったことも色々話しておりまして、そういう点でこれからは海外都市や機関等との連携を深めて、より成長できるやり方も色々トライしながらやっていきたいと思っております。

○正城委員長　　竹村委員、最後のコメントを追加で、大学の技術移転のときもそうですし、いろいろなマッチングイベントでもそうですけれども、「こんなにすごい技術を持っています」という話だけで、「何をしてほしいのか」というのを伝えていない、先ほど仰ったような「人を採用したい」、「ディストリビューターを探したい」など、その行く先に応じて何らかの発信をしていかないと、なかなか繋がらないと思うので、そこはぜひお願いしたいと思ひます。

田中委員、何かございますか。

○田中委員　　はい、特に海外の件についてコメントはなく、海外に行かないとグロースできないほどのスケールの会社がそんなにあるわけでもない、「まずは地元で大企業とちゃんと連携して頑張れよ」という気がしております。そういった意味でいうと、スタートアップの大企業の連携というのは結構進んでいることがすごくいいなと思ひますし、逆にS B Cプログラムで、さくらインターネットと協賛した結果、海外のベンチャーを大阪で活躍させる、逆のパターンが民間主導で進み始めてきたなど、そのあたりがこの半年間に来る

かなと思っておりまして、大企業連携や海外の事業者が日本に出てくる。このあたりが良かったのかなというコメントです。以上です。

○大阪市経済戦略局（田原課長代理） それについて、グローバル、グローバルと呼んでおりますが、やっぱりインとアウトの矢印が二つありまして、特に今申し上げたOSAPは完全にアウトですね。「大阪・関西のスタートアップを海外に！」というパターンですけれども、今、田中委員が仰ったこと、これはまさに国際イノベーション会議「Hack Osaka」でもそこを重点的に、特にJETROと連携して取り組んでいるところです。ピッチコンテストを国際会議の中でやるんですが、それも大体10社のうち8～9社はもう海外のアジアを中心とした海外のスタートアップです。そこで、ピッチだけではなく、やっぱりそういう企業というのは日本に来て、日本の大企業や中堅企業など色々なところとコラボレーションしたいという思いを持っているので、そういった人たちに、商談機会の提供や、今回SBC、スタートアップブートキャンプの現在行われているプログラム、デモデイですね。これもちょうど「Hack Osaka」の翌日に設定していただきましたので、そこでできるだけ出会って交流できる機会をつくって、相乗効果を上げていきたいと思っています。むしろアウトよりもインの方が結構、我々これ事業に携わる中で、需要は高いんだなということは実感しております。

○正城委員長 ありがとうございます。

では、また全般にわたって御意見いただきたいと思っておりますけどいかがでしょう。海外のところの分以外でもですね。

田中委員、いかがでしょうか。

○田中委員 よろしいですか。先日、知事にも市長にも来ていただいて、あと色々キーパーソンの皆さんも集まって盛大にイベントができた、イベントというか企画会議ができたのはすごく良かったと思っています。やっぱり自治体のトップの方がいかにコミットしているかというのは重要だと、ここでもお話をさせていただいたとおりでしたので、今後も継続して大阪府全体、大阪市全体として関わっていただくというのは重要なかなと思っています。

あとは、もし拠点に選ばれなかったとしても、別に国を頼ってやらないといけないというわけでもないですし、やっぱり継続してやっていくのが5年後、10年後の大阪の力かなというふうに思っております。以上です。

○正城委員長 はい、ありがとうございます。そこは、今の状態でもかなり頑張っていますし、どちらにせよ引き続きしていきたいと、していただきたいというふうに思いますけれど

ども。その他、東委員、全然また違う点でもいいかもしれません。

○東委員　その会議に出ていたので、その時も言いましたけど、本当にエリアをまとめて総力戦をやらないと選ばれないでしょうし、実際にあれだけ集まったのはいいのですが、じゃあその後、誰が何をもって何をするのかという話まで落とせてないはずなので、多分それをしないと、なかなか計画も立てられないだろうというのが一つあると。

田中委員の仰った点もそのとおりで、今、別件で奈良の公園でスマートチャレンジをやっていますが、シリコンバレーから香港に移ったスタートアップを奈良に呼んで実施しています。実は、そのスタートアップが喜んでるのが、海外での資金調達をそのネタでやっている点です。まずフィールドとして結構大きなものを渡して、国交省など日本の政府機関が全部支援するような枠組みで実施しているので、そういうところができなかったと、香港でもなかなかできないことを日本でやって、それが広がりつつあって、他の地域でも日本でやり出しているのですが、やっぱりある程度その検証フィールドをグローバルに開放すると寄ってきますというのが一つあるのと。

もう一つがそれに後押しする形でぜひ大阪市でもやってほしいのが、ちょっと日本で今、中小企業庁が法改正で動いておりますが、S B I Rの改定ですね。公共調達のスタートアップ開放ということで、今までは中小企業等みたいな形の公共調達でボヤッとしていて、各省庁でそれぞれ何かしらのミッションがあったわけではないと。総額を後で補填して入れるというやり方ですけど。あれを明確に技術系スタートアップだとか、スタートアップという名前を入れているわけですよ。研究開発型とか。だから、かなり拡充はされるので、まず省庁から始めていくとは思いますが、大阪でも色々な課題がありますから、大阪でもある意味、公共調達の間口を広げるやり方でマーケットを創ってあげないと逆に海外も寄ってこないでしょうから、公共のある種の事務事業でやっている内容も山ほど可能にすると結構なマーケットにはなっているはずなので、あそこは結構いいネタになるかなと思っているのが一つですね。

例えば、熊本市と話したのは、逆に日本の特に地方部や地下水が出ている等、上下水道問題ですね。上下水のメンテナンスに関する話が出てきますが、日本は既にインフラが老朽化して課題が顕在化し、それを解決したいと言っている。最近ニュースになりましたけど、アメリカと日本政府でプノンペンスマートシティ開発を行う点について、プノンペンの社会課題が「これからインフラ引きます」というところです。洪水や排水をどうしましょう？みたいな。それを一からこれから調達するわけですから。それを日本である程度ケーススタディ

イしておいて、オペレーションテクノロジーも丸ごともっていきみたいなことだったら、スコッと入るといふ。そうした時に、ここからまた、今の例はプノンペンですが、同時にハノイの開発も日本行っていますねと。そうすると1つ大阪で「いいな」と思っているチャンスがベトナムからベトジェットが飛んでいる点です。2万円往復できる。ということは結構ベトナムのアップ層が日本に来て、ある程度技能訓練して帰って自分で頑張るといふ世界はかなりつくれていて、今まで正規航空運賃だと十何万円もしていたところが2万円まで下がると、距離というよりはコストの問題で、結構、大学のそれなりの教育訓練を受けた人たちがこっちに来やすいと。日本で技能訓練を受けるとか、例えば日本に来てスタートアップしましょうとか。その後ベトナムに戻ると言ったら、彼らと通じて日本のパナソニックなど、大企業が放りこんできて、現地のリーダーとして活躍してもらおうとか、これ多分、都市間連携がかなり重要になってくるので、そういうストーリーを描いて人材流動を図るとか、仕事を創り外貨を稼ぐというところにそろそろ来たのかなというのが今の状況です。そういう意味では前の「スタートアップ・エコシステム拠点都市」の話も、あれは大きな話のまちづくりの中での枠組みに入るといふ話をしたのはそこですね。シンガポールもまさに今「アジアの、南アジア、東アジアの開発をシンガポールが仕切る！」みたいなことを言い出しているわけです。そのために「世界中からテクノロジーを集めて開発サポートします」といふ話で、そこに今回、日本が乗ったということなので、大阪にはたくさん大企業ありますし、大企業の足回りが遅ければスタートアップと一緒に組んでやれば良いということで、よりその大企業とスタートアップの関係性を密にして、海外マーケットは同時にそれぐらいの社会的なマーケットを開拓してあげるといふのと、民間は民間で開拓したらいいと思いますが、どちらかといふとソーシャル的なマーケットって、逆に大阪市だけでもシンガポールにアドバイスできることや東南アジアにアドバイスできることはあると思うので、そういう総力戦をやっていただくと結構伸びるかなと思いますね。

○正城委員長　ありがとうございます。幾つかコメントをいただきましたけど、いかがでしょうか。

○大阪市経済戦略局（大山係長）　1点、大阪市では、我々の部局ではなく水道局で、ベトナムのホーチミンとの交流や、技術指導ということで職員の受け入れも行っておりますので、そういったところから接点は既にあります。過去に副市長が訪問したこともございましたので、接点があるところで今の仰っているような点で、できることを我々としても考えていきたいと思ひます。

○東委員　　今、日本で上下水を今から触るのは結構大変なので、なかなかスタートアップを紹介して、やりましょう！ということではできませんが、最初から「日本はこんな点で苦労したよ」という話で支援してあげて、そこで一緒に開発すると結構、色々な機会を創れると思いますね。　そういうマーケティングチャンネルも結構、役所にはあるはずなので、そこは開拓してあげると、それに引っ掛かってくるスタートアップが出てくると思います。

○正城委員長　　先ほどの東委員が前半に仰った「大阪市という自治体としてマーケットをつくっていく」という、インフラの例が出ましたけれども、大阪市のインフラでこういう課題があるので、ベンチャーにやってもらえませんか、といった点はベンチャー支援の部署だけでなく、他の色々な部署から吸い上げたりすると面白いと思うんですけれども、そのものでなくても方向性や、何か関連するところがありますでしょうか。

○大阪市経済戦略局（馬越部長）　　大阪市では既にベンチャー調達制度というのがありまして、優れた品質や新商品を扱う中小企業等を対象に支援しておりまして、役所がモノを購入するときは競争入札ですけれども、その場合は、認定されたものについては各局が随意契約できる制度がございます。やっぱり契約の場合は色々な規定もございまして、東委員も先ほど仰ったように、法律等の状況を見ながら対応していくことになろうと思います。

○正城委員長　　大阪市では、保有する公共データをある程度開放し、新たなビジネスを呼び起こすようなことを実施されていますか。まだ、そこまで行ってないですか。

○大阪市経済戦略局（大山係長）　　ビジネスを呼び起こすところまでは、まだです。

○正城委員長　　自治体と住民とメーカー等と連携して、あくまで住民のためになるようなデータを使ったサービスを実施しているところもあったと思うので、またちょっと御紹介したいと思います。

　　あとは、いかがでしょうか。何か竹村委員、何か別の点ありますでしょうか。

○竹村委員　　スタートアップ・エコシステム拠点のことで、ダイバーシティーやクリエイティビティを意識していただけるとすごく可能性が大きくなっていくのではないかと期待しております。

○正城委員長　　はい、ありがとうございます。今の点、女性だったり海外の方だったり、今まで関わっていた人ではなく新しい方々、会員も純増を目指しておられますけれども、そこについて何か具体的に、あえてそういう方向に仕掛けているプログラムがあるなど、あるいは目指そうとしているところは何かありますでしょうか。

○大阪市経済戦略局（馬越部長）　　先ほどの海外のスタートアップを呼び込むところに関

わってきますが、竹村委員の仰るとおり、このダイバーシティ、インバウンド、海外からも人を呼んでくるというのは非常に重要です。拠点都市の話も、これからコンソーシアムの中で計画をつくっていくことになるので、そういう海外から呼び込むということももちろん重要なテーマになると思います。また大阪では万博もございますので、その辺もやっぱり海外から色々な人に来ていただいて、スタートアップも来てもらって、そういうスタートアップが万博の場でも色々な実証・実装の場で活躍してくれることはやっぱり我々の願いでもありますので、実現するように、これからも取り組んでいきたいと思っております。

○正城委員長 女性の観点はどうですか。

○大阪市経済戦略局（馬越部長） 女性も同じです。

○竹村委員 実は、写真を拝見してそこはすごく気になっておりました。

○正城委員長 男性ばかりですからね。

○大阪市経済戦略局（大山係長） そうですね。

○正城委員長 O S A Pはお二人いらっしゃるから。でも、まだちょっと少ないかもしれませんね。

○大阪市経済戦略局（大山係長） あとは、そういった点につきまして、少し東京と違う点として「モーニングミートアップ」があります。東京では、ピッチ登壇者にとってメリットのある人しか呼ばないということでスクリーニングがかけられていますが、大阪は公共施設で実施しておりますので、そこまで限定しておりません。例えば学生ですね。高校生、大学生でも希望があった場合は入れるというような形で、次世代を育てる点にも重きを置いております。

○正城委員長 ありがとうございます。他はいかがでしょう。

○田中委員 大阪をどう客観的に捉えるかというところだと思うのですが、地方の方は、そもそも「東京とそれ以外ではない」と認識していない気がします。それと同じく、大阪も東京や福岡しか見ないのではなく、例えば鹿児島や札幌など、特に札幌はスタートアップ拠点都市として名乗りを上げようとしていますし、どのように「大阪の強みを客観的に認知するのか」をもう少し明確化した方が良いのかなと思います。

あと、やっぱり大阪って非常に中途半端だと感じ始めていて、今で1,700万人ですかね。2,000万人弱ですけども、世界の大都市は大体大きくても2,000万人ぐらいですね。世界の大都市と比べても大阪は全く遜色がなく、東京だけが4,000万人近くで世界に突出して、人数が多過ぎる都市だと言われています。東京ってこの先暗いのではないかと、未来が無い

街だと感じるわけです。余りにも広域化し過ぎている。普通は都市と都市の間には田舎があるものですがけれども、関東平野はどこまでもビルが建っている。関東平野が大きいだけではなくて、過度に人口が集中し、それに伴う弊害がすごく認識されているので、恐らく20年後、30年後は厳しいだろうと。世間の評価とは違って、私はそう思っています。

特に、子供の生まれる率でいうと、東京は突出して低く、1.2です、出生率が。日本の平均よりも低い。若い女性が東京へ行くと子供を産まなくなるということですが、女性が仕事をしたら出生率は低くなるっていうのはあれ、嘘じゃないですか。というのも、出生率と仕事を女性がしているかも全く関係なくて、女性がすごく仕事をしている秋田県で出生率1.3と全然子供を産まないけれども、島根では、すごく皆、女性が仕事をするのに出生率では1.8ぐらいは子供を産むとか、そういうことがあります。なので、東京に行くと「日本の未来がない」と端的に言えることですがけれども、そのミニ東京化がやっぱり大阪市、大阪府じゃなくて大阪市ですね。どんどん若い女性を引き寄せたあげくに子供を産ませない街になっている。多分これ20年後とか、「なかなか無いな〜」と思います。一つのキーワードとして、人を産むってことですがけれども、子供を産むだけではなく、法人を生むということも非常に重要なので、その文脈でスタートアップが重要なわけです。けれども、東京も大阪も子供を産まない街になる中で、子供を産むための施策と並行して企業の施策というのがいかにしていくかということは非常に重要だと思っています。

あと、加えて、日本中見ると、出生率と就業率、開業率など本当にバラバラです。東京と地方という二元で書かれるわけじゃないし、大阪と福岡っていう二元でもなくて、本当に出生率、開業率、人口増加率、流入率、いろいろな数値を見比べていただくと、実は本当に多様化していて、都市によって一緒ってことはまずありません。その中で大阪はパラメーターが、かなり中途半端な位置にある。出生率は低い、開業率もそこまで高いわけじゃない。ただ人口は増えているけど、高齢化率はすごく高い。ただ、それだけ課題が先行している国だからこそ何かできるチャンスがあるのではないかと。そのあたりをぜひ事務局の方々に、どういうふうに客観的にこれはいい数値とみて、これは悪い数値だと見ているのかというのをこれから教えてもらえたらと。今日じゃなくて結構なので、研究いただきたいなと思っています。

○正城委員長　ありがとうございます。いかがでしょう。今の点。非常に大きな視点の御指摘でしたけど。

○大阪市経済戦略局（馬越部長）　大阪府市で、今年の8月にスマートシティ戦略会議が

立ち上がり、その中で高齢化、人口減少、インフラ老朽化といった社会課題に対応しQOLを高めるという観点から、ここで検討していこうということで検討が進んでおります。その中で住民目線や、それから企業・住民と協働してビジネスにも繋げる、それから新しい技術を実証、実装を進める、という観点での検討も進んでいます。これから色々な現存する課題に対して、都市としてどのように対応していくのが非常に重要だと大阪市でも認識しております。

一方で、そういう点を解決するドライビングフォースがスタートアップであり、その牽引役という役割があると大阪では考えております。やはりスタートアップとその向こうにはスマートシティ、そこでは住民のQOLもより高まったものに！ということで、やっぱりそのように進めていかないといけないというのが、市の中でもそういう理解が広まってきております。我々はスタートアップを新たに生み出す、そして成長するように！ということで、色々な支援を行うのが我々の使命でして、そのように進めていきたいと思っております。

○正城委員長 田中委員の仰っていることを私なりに理解したところ、一つは「大阪はどんなのか」ということかと思えます。例えば今、山陰の島根県では出生率が高い点は課題にはなっていないが、大阪はそこが課題かもしれない。そのある意味、大阪が優れているところや、大阪が最下位付近になっている課題を、色々なこの走っているプログラムのテーマにする、ハッカソンのテーマにする話になると、他都市が真似できないことだと思います。

○東委員 一方、田中委員も仰るとおり、地方を見ていると、考え方が変わってきています。私、山梨県のリニアの構想の中に入っておりますが、そこではリニアが引かれたら大体、自治体の方ってみんな同じ計画を立てられます。「MICE 制度をつくりましょう！」「研究機関を建てましょう！」「人を呼んでこようしましょう！」と。県知事に、それは違うと。品川まで25分ぐらいで着くわけです。ということは「富士山見ながら住みたいよね！」みたいな話で、向こう10年、20年後、わざわざ電車に乗って働きに行くこと自体がもう無いのではないかという話になります。そうするとやっぱり居心地の良いところに拠点を置いて何都市かに住む、という方も当然出てくるよねと。「週のここは山梨に行って、たまに東京に働きに行くか」みたいな話も、「たまに海外行くか」というライフスタイルになってくると。その時に大阪が「広域的に、どういう立場で考えるか」という話は重要になります。

奈良は全くビルもなく、高さ制限もあるので、変な話、昔の何か江戸時代以前の景色が残っているわけですね、明日香村とかになると。のどかで良いなと思うわけですよ。家族がいると結構、東京からみんな帰って来たりします。40代周辺の人たちはもう東京で1回仕事を

つくってクライアントをつくれれば、フリーランスの人はパソコンとネットが繋がれば仕事ができるので、ある程度、他に行きながら仕事は維持するという働き方に、次の世代はライフスタイルが大分変わってくるので、その時に、じゃあ「大阪の機能とは何か？その人の人生の中で」という位置づけが、まだぼんやりしていて…。先程、田中委員が仰っていたグレーター関西になると1,000万を超え、大阪府民だけでも880万人います。このまま定住人口が減っていく考え方というよりは、関西広域の中で大阪はどうで、お隣の奈良や和歌山とはどういう関係性を結びましょうかという、新しい、住民中心で考えるスマートシティの話であれば、多分そういう生活スタイルの時に大阪は何を提供できるか、と考えて行くほうが何かしら何か新しいアイデアは出るのではないかと思いますね。だから、本当に福岡や東京と比較しても全く意味がなく、むしろ奈良と何ができるか、和歌山と何ができるか、「こういう生活どうですか？」といった提案ができると「何か大阪新しいね」となる。

○田中委員　それって、ダイバーシティという観点で言うと、そもそも平野区と福島区ですら違うと。西成も。大阪都構想で選挙の割合がひどかったわけじゃないですか。地域によって。私は阿倍野区民ですが、すごく保守的ですし、福島区に家を持っていますけど、そこはすごい人口も増えていて…やっぱりダイバーシティというのは女性、男性や外国人だけではなく、そもそも大阪市民すらもバラバラで、区もバラバラで、その中で地域課題を探すと結構答えが見つかるのではないかと、灯台下暗しではないかと感じています。

○正城委員長　ありがとうございます。今の話に関連して竹村委員、何かありますか。

○竹村委員　今の田中委員の御意見にすごく賛成します。けれども、何か地域のダイバーシティをもっと何か表出する仕掛けみたいなものは、この今回のスタートアップ・エコシステムでもありますが、OIHでもぜひ取り組んでいただきたいなと思います。というのも、今、学校の中でも変わっていき、もっとうスタートアップ的なクリエイティブマインドのある学校でも社会との接続ってすごく少なかったりして、1回大学行って、大学卒業してからスタートアップという、何かそういう今までの順序があったと思いますが、今アメリカだとやっぱり中学～高校ぐらいからアントレプレナーシップ教育を行う公立校もありますし、学校の中で企業経営みたいなちょっとした購買部など、ビジネス経営みたいなものもやっぱりしている、これも地域の課題から始めるみたいなことも割と普通にあります。なので、本当にこれからスタートアップを倍増させていくのであれば、もうちょっとそういった若年層との連携を通じて、よりもっとダイナミックになると、田中委員の仰る多様性も、地域の中でぐいぐい表出できると思います。

○正城委員長　　ありがとうございます。

○東委員　　そういう意味では、今、和歌山で「GTイノベーションキャンプ」というのをやっていて、4回ぐらいになります。中学生、高校生対象の起業家プログラムで、合宿形式で夏場にやっています。カメルーン、ブルネイ、シンガポール、インド等から高校生を呼びます。日本の高校生と一緒に実施する形で本当に起業家教育をシリコンバレーの高校の先生を呼んで行っています。年々結構広がってきていて、やっぱり発想がかなり豊かですね。やっぱり真っさらな状態からスタートするので。そうすると変な話、最近の大学生のピッチより、まともなピッチにする子もいます。高校生で。本当に凄いなという。その後にやっぱり皆さん Facebook でつながって、高校ぐらいからブルネイの子たちと友達になったりとかね、「もう今は日本の大学行きたくない」と言っている高校生が結構多くて、アメリカの大学を探しに行ったり、親御さんと一緒に事業を何とかそういう感じになってきています。本当にちょっと在野で、一般社会でやり始めましたが、やっぱりこれが本当に広がれば、かなり意識・メンタリティーが中高で変わります、大学でやるよりも。大学がちょっと遅いとは思いますが、携わっていると。やっぱりある種、起業教育ってリベラルアーツ的な教育もセットになっているので、「何で困っているか探してこい」みたいな点がスタートでね。それは本当にOIHのときに中高呼んでやるとか、そこは早目にやったほうがいいかなと思いますね。

○大阪市経済戦略局（田原課長代理）　　OIHでも1年に何回かは中学生、高校生が参加できるプログラムもあります。大学は私も見ていて、やっぱり明らかにこう数年前と変わってきています。昔は起業やビジネス創出に凄く熱心な少数の先生に支えられていた感じでしたが、今は大分組織的に行われていますし、非常に進んだと思います。でも、やっぱり中学～高校に関してもまだまだかなと。一部、物凄くリーダーシップ取って、アントレプレナーにならなくてもアントレプレナーシップを身につけさせる、それに気づかせるような教育も、盛んになってきていると思いますが、学校そのものを動かすというのは難しいので、OIHでも可能な範囲でチャンスを与えることをしていきたいと思います。

○竹村委員　　本当にそういうことだと思います。チャンスを与える、ロールモデルを提示してあげるなど。

○東委員　　我々も最初、高校生を集めるのに苦労しました。毎年やっていると徐々に口コミで増え、今ではもう渋谷の広尾高校なんて、「ここだけでやる」と言ってきています。やっぱり行政的には、教育委員会通じてやらないと、まず、ビクとも動かないので、「まあ来

なさい」と。親御さんが興味あったら連れてくるみたいなね。

○正城委員長　ありがとうございます。

途中で、「大阪の特徴として大企業とベンチャーの連携が多い」という話がありましたが、OSAP以外にその取り組みをやっているところはあるのでしょうか。

○大阪市経済戦略局（田原課長代理）　OIHの通常やっているイベント、プログラムでも「イノベーションエクステンジ」という、所謂リバーズピッチですね。大企業側から課題を提示して、それを解決すべくベンチャーと会うと。最初はオープンな場で始まって、徐々に内容を深掘りして行って、クローズドな場に行くと。そういうきっかけを提供するイベントは年に数回やっております。これはやっぱり大企業の方に、あとは大企業の新規事業担当者、開発担当者を対象にした一種のアクセラレーションプログラムですね。イントルプレナーミートアップというのも土日に連続で実施しております。そういう大企業を対象にしたことができるというのは、そこは一つ、大阪・関西の強みなのかなと。大企業がまだ沢山いらっしゃるので、そこはこれからも注力していきたいと思います。

○正城委員長　ぜひ、これからまた変わってくるかもしれませんが、そういう新しい事業を起こそうとする優秀な時代は、日本の場合は大企業に終身雇用の中で就職されているというようなことも指摘されるので、余りそこを言い過ぎると大企業さんが寄ってこないですけども、結果としてそうなることはあると思いますので、引き続きそういった事業を進めていただいたらと思います。

他はいかがでしょう。では、そろそろ時間ですので、もしなければ、今日は色々と海外のお話から始まって、自治体の持つ強みや弱みというところを客観的に見ながら、様々なイベントを組んでいくというお話もありました。よく組織の計画や目標を書いたときに、主語を別の組織にしても成り立つというのがよくありますが、主語が置きかえられないぐらい、それは大阪市じゃなくても、企業の話だと区レベルや地域、もう少し広域でもいいと思いますが、まさに「ここでやってます」ということが言えるような取組みをどんどんしていただければと思います。それを新しく何か1本「柱を立てる」というのは少し難しいかもしれませんが、今は、かなりコミュニティ形成イベントも含めて多くやっていたので、何かその既存の取り組みの中のテーマを決めるときに、今日いただいたような御意見を少し反映するような形であれば開始できると思いますので。

○東委員　そうですね。かなりエッジの立ったテーマを一発集めるだけで全然違うので。

○正城委員長　そうですね。ほかの民間でも、万博に向けて、「万博で展示するべく考え

ましよう」みたいなイベントも出てきているので、そういったイベントもそうですし、実際のお困りごとでもそうですけど、どんどん取り入れていただいて、前から各委員、指摘していただいているように、これをきっかけに色々な有機的な繋がりを進めていただければと思いますので、よろしく願いいたします。

最後にこれだけは言っときたいみたいなことがあればぜひ。

○竹村委員　　1点だけ、瑣末なことかもしれないですけど、情報発信が素晴らしく、英語情報もすごく増えていいなと思って見させていただきましたが、今後、中国語での発信も御検討の範疇に入るのでしょうか。と申しますのが、インバウンドの話もございましたが、やはり中国に優秀な人材が凄く集まるので、多分、今後を考えると中国語の発信も…。

○正城委員長　　はい、それは御計画があるかどうかという観点かと思います。

○大阪市経済戦略局（田原課長代理）　　まず、正直に申し上げますと、考えておりませんでした。ただ、どうしてもグローバルという時に、まずは英語でコミュニケーションを取ろうとしますが、実際O I Hで仕事をする中で、やっぱり中国の各都市も今、都市間競争が凄く激しくなっておりますし、都市の方がイノベーションの取組みを売り込みに来られたり、あとは個々のスタートアップや支援機関が来られたりですね。あと日本国内でもやっぱり中国人の起業家の方がたくさんいらっしゃいますので、もう確かに物凄く中国、このビジネスパートナーとして、あるいは将来O I Hとしてプレーヤーになっていただくかもしれないと、そういう目で中国の方を見ることは増えてきております。少し体制の問題もありますが、検証していきたいと思います。O I Hとして中国語で発信することで何が変わるか、あるいはそれで世界から大阪を見る目は変わるのかなど、もう少し考えていきたいと思います。

○竹村委員　　ありがとうございます。

○正城委員長　　ありがとうございます。

では、そろそろお時間ですので、委員の皆様、今日も活発な御意見ありがとうございました。

それでは、本日の議題は以上ですので、連絡事項等について事務局からお願いします。

○大阪市経済戦略局（松本課長）　　委員の皆様、長時間にわたりまして、ありがとうございました。本日いただきました御意見を踏まえ、今年度の残りの期間及び来年度の事業の準備に反映させていただきたいと考えております。

また、資料の中にもございましたが、国際イノベーション会議「Hack Osaka 2020」を、来年2月27日にグランフロント大阪地下、コングレコンベンションセンターで開催を予定

しております。委員の皆様方にもメールで御案内をお送りさせていただきますので、御都合がつくようでしたら、ぜひ御参加いただきたいと思っております。

また、当日はY o u T u b eでの配信も予定しておりますので、そちらで御視聴いただくことも可能となっております。

また、次回の評議会につきましては、来年3月ごろを予定しております。詳細につきましては改めまして御案内を差し上げますので、どうぞよろしく願いいたします。

事務局からは以上です。

本日はありがとうございました。

閉会 午後2時24分